

1. 活動報告（事務局 記）

- 3月27日 会計監査と19年度総会準備 三役と監査役参集
- 4月1日（日）本日19年度総会が実施されました。27名の参加でした。
総会のしおり内の協議事項承認のほか、下記決定いたしましたので報告いたします。

記

- ① 今後活動に関わる費用（田越機械作業等）を一般的な支払とする。
- ② 資材工具置き場を現地に新規設置する事になりました。
- ③ 合鴨農法について もう少し情報収集、勉強をして取組むことになりました。
- ④ 傷害保険について 会員の29円/一人役について保険対象を詳しく調査する事になり、内容によってはチェーンソー、草刈り機災害も対象の保険に変更する。子どもエコクラブの助成保険に全スタッフを対象で申し込むこととする。
- ⑤ 実りある活動に対して第三土曜日の活動日に観察隊リーダーを主軸に勉強会を含む会員のコミュニケーションの時間を持つ事になりました。そのためには第三土曜日参加者は昼食準備のうえ午後観察隊も含め参加する事となりました。
- ⑥ 炭焼きの活動が場所換えのため撤去の了承を得ました。
- ⑦ 「しおり」内での大きな決定事項
 - イ) 借用地購入資金として50万円の定期預金を更に開設する。
 - ロ) 宇部市市民活動センター会員の意義について協議し脱会することになりました。
 - ハ) 里山自然観察隊スタッフに郷中会員、岡村会員、吉崎会員を追記
- 4月21日（土）保全活動
- 4月21日（土）午後の里山自然観察隊は今年度の最初の行事です。食べられる野草観察です。参加した隊員24名、保護者20名、会員スタッフ13名で野草を採って天ぷらにしました。春のほろ苦い味を堪能しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
 - 見学者案内依頼 6月2日または9日 子どもエコクラブ 案内要
- ◎ 行事
 - 5月 6日（日）（第一日曜日）保全活動（水路の水利組合との溝掃除、草刈）
 - 5月19日（土）（第三土曜日）保全活動〔エコアップ〕、里山自然観察隊

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ツバツチグリとオヘイチゴ

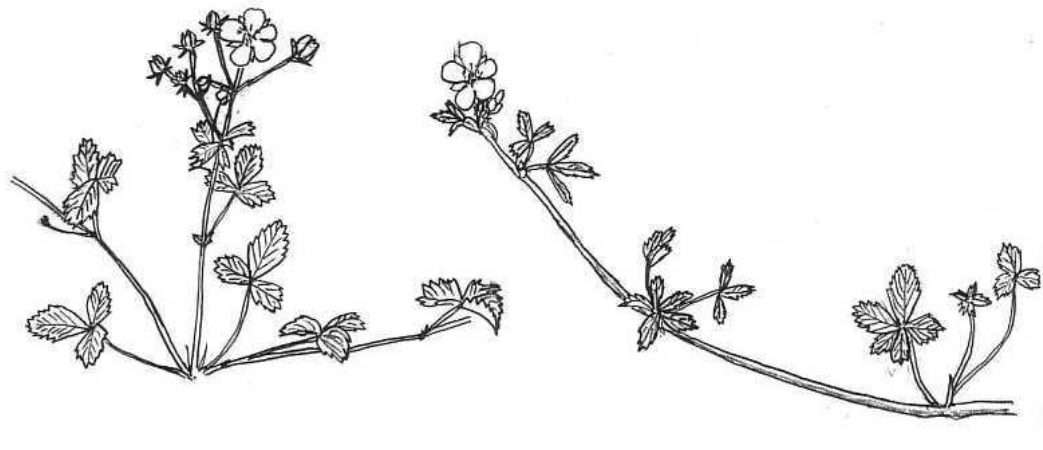
ビオトープの草地で咲いている黄色い花2種を紹介します。

ミツバツチグリはバラ科キジムシロ属の多年草で、三つ葉のツチグリという意味です。ツチグリとは、西日本に生育するバラ科の多年草で、地下にできる根茎がクリに似ているのでツチグリという名前が付いています。ツチグリは絶滅危惧種で、山口県では秋吉台にあるくらいで他では見られないといひます。ツチグリのクリのような根茎は生でも食べられるといひますが、ミツバツチグリのほうは根茎は肥大せず、食べることはできません。ツチグリが数を減らし、ミツバツチグリがどこにでもあるのは、食べられるか食べられないかだけではないかもしれませんが、近年のイノシシの増加が影響を及ぼしている可能性も否定できません。

オヘイチゴは、花だけを見る限り、まるでミツバツチグリと瓜二つで区別が付きません。どこで見分けるかという、葉の形、ミツバツチグリはイチゴのような3枚の小葉ですが、オヘイチゴは図を見ていただきたいのですが、根元の方は5枚の小葉です。その他にも、ミツバツチグリはまるでイチゴの株のように花を付ける株は直立し、ランナーを四方に出しますが、オヘイチゴはすべての枝が匍匐して、立ちあがった枝の先に花を咲かせます。

オヘイチゴは雄蛇莓という意味ですが、ミツバツチグリと同じキジムシロ属なので、イチゴの仲間であるヘイチゴのような赤い実は付けません。今ごろ同じような黄色い花を咲かせるキジムシロ属とヘイチゴ属には、その他にキジムシロ（キジムシロ属）、ヘイチゴ（ヘイチゴ属）、ヤブヘイチゴ（ヘイチゴ属）と全部で5種類あり、頭の中をよく整理してかからないと、あれっどっちだったっけ、とわからなくなることがしばしばです。

ビオトープでは、今の時期、オヘイチゴとミツバツチグリがほとんどで、それも平らな湿りがちの場所はオヘイチゴ、斜面で乾いている場所はミツバツチグリというふうに見事に住み分けています。一見してみると同じ花が連続して咲いているようですが、よく見るとこの2種がはっきり分かれています。通り一遍の見方では見過ごしてしまいがちな事実が自然界には数多くあります。ミツバツチグリとオヘイチゴの住み分けもまさにその好例だと思います。



ミツバツチグリ（バラ科）

オヘイチゴ（バラ科）

4. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

?月?日《おそらく22日と思われる》

ビオトープには、水車や白サギ、たにし、ちょうちょ、はや、いろんな物があり自然がいっぱいあるなあと感じて気持ちいい空気でした。

くさがかってあってあるきやすく、あずまやでやすんだりできてすごいよかった。なかなか見られない、ちょう見たことのないすいしやがこのビオトープで見られてよかったです。

たのしくすごさせることができました。これからも、ビオトープをいけたらといいなあと感じます。 6年 西村みほ これからいつまでも・・・・・・・・

※ そのまま転記しています。

事務局気付き記入 つくる会も一生懸命に保守して行きますのでいつまでもおいでください。

5. 里山自然観察隊 (4月21日、隊員24名、保護者20名、会員13名)

食べられる野草

19年度第1回目の里山自然観察隊は4月21日に無事終了しました。

今年の最初の観察隊は恒例になっている「食べられる野草」で、子ども達が探した野草をその場で天ぷらにして食べるという趣向です。例年20種の野草を探してもらうのですが、毎年子ども達がいとも簡単に見つけてしまうので、今年はビオトープ内の野草だけではなく、道沿いの木の芽、若葉も問題に入れました。今年の20種とは、セイヨウタンポポ、ノアザミ、ハハコグサ、フキ、ヨメナ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、タネツケバナ、ウシハコベ、カラスノエンドウ、ノビル、ツクシ、ワラビ、セリ、アサザ、サルトリイバラ、アケビ、ヤマザクラ、カキノキ、ヤブツバキ(花)ですが、その中で、セイタカアワダチソウ、ウシハコベ、アサザ、サルトリイバラ、アケビ、ヤマザクラ、カキノキ、ヤブツバキが今回初めて問題に入れた種類です。

例年とは違い、今年は午前中にビオトープ内がきれいに草刈りされているというハンディキャップをものともせず、子ども達はあちこちを走り回って、開始後30分には早くも全問正解者が出ました。これには正直言って私も驚きました。よく植物がわかった大人でも、30分で20種全部を見つけきるのには難しいと思います。私自身、1週間前の下見と当日の昼休みの計1時間半で、やっと20種を見つけたくらいです。45分間に子ども達の探した数の加重平均をとると、13.5種でした。子ども達の能力の高さには目を見張る思いです。

今年初めて試食した中では、サルトリイバラとカキノキがくせもなく、良い感じでした。反面、セイタカアワダチソウとヤマザクラはそれぞれ独特のくせが強過ぎ、期待したほどではなかったので次回は外します。

タケノコやワラビ、タラノメなど事前に準備したり、天ぷらに揚げてくださったスタッフの皆さん、ご協力ありがとうございました。来年はさらに問題を難しくするために山の中まで範囲を広げて、タケノコやコシアブラ、タカノツメ、リョウブなど、二俣瀬では一番良い天ぷらの材料を子ども達自身に取ってもらおうと思っています。

(美濃和 信孝 記)

6. 会よりの連絡事項

- 1) 広報部7月1日号にて当会の紹介記事の依頼あり (UNCCA より)
- 2) 合鴨のひな購入先を調査中です、何方か調べる事が出来るか? 知っておられる方は、事務局まで教えてください。

7. 編集後記

4月に入って、19年度の活動がスタートしました。21日の、里山自然観察隊では、隊員とともに多くの保護者の方も参加されました。お父さんも意外に多かったです。皆さん、楽しそうでした。実働会員の不足に悩む当会においては、この中の半分は無理としても、せめて1割ぐらいは“里山ビオトープ二俣瀬”の実働会員となっていただくことをお願いしたいのですが。

実働会員が増えれば、もっと丁寧な維持管理が可能になります。草刈でも鎌による手作業が好ましい個所がありますし、田んぼでも除草剤を蒔かなくてすむと思います。そしてなによりも、会員の勉強の機会を増やすことができます。

しかし、現実には厳しいものがあります。私のように終世窓際なら良いのですが、働き盛りの人は、仕事・家庭に追われボランティア活動どころではないでしょう。活動できるのは定年後となります。女性でも、周囲の理解を得て活動に参加することは簡単なことではないでしょう。日本の社会が、もっとボランティア活動を認知してもらえれば良いのですが・・・

ボヤキとなりましたが、私には自分自身の手を動かすことしかできません。今年もアイ鴨の代わりに田んぼの除草に精を出すこととしましょう。

(前田 歳朗 記)